

2016年度 9月大学院学位授与式 総長式辞

2016年度9月大学院学位授与式に当たり、早稲田大学を代表して、お祝いのご挨拶を申し上げます。

本日、めでたく授与式を迎えられたのは、修士課程修了者340名、専門職学位課程修了者113名、課程による博士学位取得者91名、論文による博士学位取得者10名、合計554名の方々です。

うち、海外からの留学生は、修士課程修了者296名、専門職学位課程修了者67名、博士学位取得者31名、合計394名（71%）の多数にのぼります。

皆さんが本日の学位授与式を迎えるまでには、長い年月と多大なご苦労があったものと思います。様々な困難を乗り越えて、それぞれの学位に要求される高い水準の研究力や専門的知見を身につけられたことに対して、最大限の賛辞を贈ります。

と同時に、これまでの間、学位取得者の皆さんの研究を指導されてこられた先生方、共に励まし合い研鑽を積まれた研究仲間の皆さま、そして研究生活を物心両面から支えてこられたご家族の皆さまに、心から敬意と祝意を表します。

さて、今日の社会は、グローバル化や科学技術が進展する一方で、資源の枯渇、環境破壊、金融不安、少子高齢化、地域間格差など地球規模の課題が深刻さを増しており、こうした地球規模の課題を解決する力を備えた「高度専門人材」への期待が高まっています。

昨年9月に、文部科学省中央教育審議会大学分科会は、「未知の知や技術、新しい価値等の創造が成長の基盤となる知識基盤社会にある今、高度な専門的知識と倫理観を基礎に自ら考え行動し、新たな知を創り出し、その知から新たな価値を生み出して、既存の様々な枠を超えてグローバルに活躍できる人材である高度な『知のプロフェッショナル』をいかに育成するか。これが、我が国の将来の発展の鍵」であるとして、高度専門人材の育成を担う大学院教育の改革を強力に推進することの重要性を強調しています。

本学もまた、2012年に策定した中長期計画「Waseda Vision 150」において「人間力・洞察力を備えた世界に貢献するグローバルリーダーの育成」、「未来をイノベートする独創的研究の推進」を目標に掲げ、グローバルな知識基盤社会を牽引する「知のプロフェッショナル」の育成に向けて大学院教育の拡充と改革に力を注いでまいりました。

本日、ここに、博士、修士あるいは専門職学位を取得された皆さまは、本学大学院での学修と研究活動を通じ、高度の専門的学識だけでなく、幅広い教養と洞察力、人間力、国際性など、地球規模の課題に知の力をもって挑戦し、人類社会に貢献する「知のプロフェッショナル」、「グローバルリーダー」としての素養と能力を十分に身につけてこられたと思います。

もともと、本学の数多くの卒業生たちは、世界の至るところで、また政治・経済・科学・芸術・スポーツなど、ありとあらゆる分野で、大いに活躍をし、高く評価されてきました。

英国の大学評価機関「クアクアレリ・シモンズ社（QS 社）」が昨年 11 月に発表した、卒業生の活躍ぶりを評価するランキング「QS Graduate Employability Rankings 2016」において、本学は国内 1 位、世界 33 位と、高く評価されたのも、本学卒業生の活躍ぶりが、広く世界の経済人の信頼を勝ち得ていることの証左であると考えます。

本日、この場に出席されている学位取得者の皆さまが、先輩たちに勝るとも劣らぬ活躍をしてくださるものと確信しています。

と同時に、以下のような点について十二分に配慮されるよう、期待し

ています。

第1に、皆さんは、最高学府中の最高学府を修了したわけではありませんが、皆さんの学問・研究は本日で終わったわけではなく、新たなスタートラインに立ったのであり、今日からまた不断の学びを続けていただきたいということでもあります。博士学位も、学問研究を極めきったことを証明するものではなく、独立した研究者として自律的に研究を進める能力を有することを証明するに過ぎません。

本学の創設者・大隈重信も、100年余り前の卒業式で、

「社会の状態は学校とは違うのである。(中略)、種々の予期すべからず困難が度々来るのである、其時に始めて人間の智力が之を解決する、それ故に常に研究的態度を以て、常に学問して死に至って止むと云ふことではなればいかぬ、此ことを学校を卒業するに当って諸君の脳裡に深き印象を以て刻みつけて、終身忘れぬと云ふことが必らず諸君の大なる希望を充たす基であると思ふ。」

と、述べています。

第2には、最高の学問を修めた者としての社会的責務を果たしてほしいということでもあります。

世界には、経済的な理由で学問を断念せざるを得なかった人びとが数

多く存在しています。比較的豊かな国ということのできる日本においても、子供の6人の1人が貧困状態にあるといわれています。経済的な格差が学歴の差を生み、学歴の差が経済的な格差を生むという負の連鎖が広がるのが懸念されています。また、大学院教育・専門職大学院教育には、皆さんが想像しているよりもはるかに多くの公的資金が投入されています。

そうした状況の下で大学院教育を修了することができた皆さまは、相対的に恵まれた立場にあるといえることができます。

西欧に、“Noblesse oblige”という言葉があるように、恵まれた立場にある者は、それにふさわしい社会的な責務を負っています。

大隈重信も、本学の創立30周年式典において、次のような趣旨を述べています。

「多数の国民の中にあつて、高等教育の成果を身につけた者は少数である。それらの少数の者が国家を発展させ、文明的事業の急先鋒となるのであるが、それらの者は、知識だけでなく、道徳的人格を備えなければならず、また、自分自身や一家族・一国のためだけでなく、進んで世界に貢献する抱負をもたなければならない」と。

これが、本学教旨が「模範国民の造就」として、「国家社会を利済し、併せて広く世界に活動す可き人格を養成せん事を期す」と述べていると

ころの意味であります。

ネットワークの高度化、人工知能（A I）やロボットの進化によって、今後10年～20年の間に、現在ある仕事の約半分が自動化されるだろうと予測される現代においてこそ、人間らしさがより強く問われることになるように思われます。

学位取得者の皆さまが、今後とも、進取の精神を持ち、新たな「知」の創出に向けて不断の学びを続けるとともに、豊かな人間性、人間力に磨きをかけ、地球規模の課題を解決し、世界の平和と人類の幸福を実現する歩みの先頭に立って、これを牽引していってくださることを祈念して、私からのお祝いの言葉とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございます。

以上